

§ 1 活動方針

1-1. 目的・経緯説明

鋼橋技術に関係するエンジニアは多いが、これまで在京者にとってインフォーマルな情報交換の場がなかった。何らかの技術活動を通して勉強、議論、情報交換を行ない、また、その成果を設計の現場に還元したい。

昨年8月鋼橋技術研究会設立発起人会、9月末設立総会を経て、6研究部会が設立された。その1部会である示方書研究部会は4分科会によって構成されている。当国内設計基準研究分科会は本日29名の構成メンバーによって発足する。

1-2. 当分科会のBoundary Conditionについて

国内設計基準の現状

道路協会 道路橋示方書（55年版）-改訂の下準備

土木学会 鋼構造設計指針-作成中、59年4月発足、62年3月刊行目標

土木学会 鋼鉄道橋設計標準（58年版）

関連協会

橋建協

橋関係約40社の集まり、設計部会では製作する者の立場からデータブック（手引き）を刊行、加盟会社の実績資料『橋梁年鑑』年1冊刊行、アンケート（官庁依頼）、発注者側からの検討依頼、月刊誌『虹橋』

地方研究会-関西、北海道、九州等

1-3. 今後の活動に対する要望

荒田 -橋建協の示方書運用に関するアンケート回収に携わったが、運用上の矛盾点や制作時の精神等検討の必要がある。

森田 -公団等が各自で持っている設計基準をどう位置付ければよいのか。

森川 -各設計基準の食い違いの背景や道路橋示方書の思想等をつかみたい。

梶田 -道路橋示方書の矛盾問題点を議論する場とし、また、限界状態設計法による場合どのようなスタイルになるのか勉強したい。

小林 -主に鉄道に携わってきたが、道路とは食い違う点も多く問題がある。

長谷川-既存設計基準の矛盾問題点、食い違い、限界状態設計法への移行等の問題意識を踏まえて、30人程度の人数で出来る活動を考えるとき、研究調査は難しく、勉強会という形で日常行なっている設計事例を検討し、その中に公団基準、限界状態設計法等の問題も含めていくというのが最も効率的であると考えられる。

1-4. 活動方針

- テーマ - 鋼橋の設計事例の紹介と検討
 形態 - 1回1事例を原則とする (フレキシブルに)
 話題提供者 (その回の担当幹事, 会合幹事)
 会場設定
 話題資料の準備 (→庶務担当幹事→配布)
 当日会合の進行
 結果の整理 - 議事録作成 (事務記録) A4 1枚 (ワープロなら)
 成果報告 (テクニカルな内容) A4 4-5枚 (ワープロなら)
 . . . 次回提出

会合 年6回 (2ヵ月に1回)

経費 - 分科会活動経費 15万円 (会合費, 平均1回2万5千円)

交通費 1万2千円 (その他全体で150万円プール)

庶務担当幹事 - 名取, 入部

技術担当幹事 - 小松, 熊谷 (ローテーション)

会合日程 (当面の2回)

第1回 6/4 15:00 - 17:00 荒田 (会合幹事)

第2回 7/23 15:00 - 17:00 森田 (会合幹事)

分科会長代理 - 依田